

# 公開実用平成 1-74682

⑨日本国特許庁(JP)

⑩实用新案出願公開

⑪公開実用新案公報(U)

平1-74682

⑫Int.Cl.\*

H 04 N 5/64  
B 60 R 11/02

識別記号

厅内整理番号

Z-7605-5C  
C-7443-3D

⑬公開 平成1年(1989)5月19日

審査請求 未請求 (全頁)

⑭考案の名称 テレビ移動装置

⑮実願 昭62-170221

⑯出願 昭62(1987)11月6日

⑰考案者 宮部 宏 岐阜県岐阜市則松3-165

⑱出願人 株式会社三陽電機製作所 岐阜県岐阜市上土居2丁目4番1号

⑲代理人 弁理士 草野 卓

## 明細書

### 1. 考案の名称

テレビ移動装置

### 2. 実用新案登録請求の範囲

(1) バス車両の天井の内、外張板間に取付けられた本体枠と、  
その本体枠上に移動自在に取付けられ、テレビ  
セットを固定した滑車付移動台と、  
上記本体枠と上記移動台との間に架張された駆  
動ワイヤと、  
その駆動ワイヤを駆動する駆動車と、  
モータと、  
手動駆動手段と、  
上記モータと手動駆動手段とを切替えて上記駆  
動車と連結状態とするクラッチとを具備するテレ  
ビ移動装置。

### 3. 考案の詳細な説明

#### 「産業上の利用分野」

この考案はバス車両内の通路上の前方天井に取  
付けられ、乗客が通路を移動する時と、テレビを

見る時に合せてテレビセットの位置を移動できるようにしたテレビ移動装置に関する。

「従来の技術」

従来のこの種のテレビ移動装置は実開昭58-139774号公報に示すようにテレビセットの移動手段として、ボールねじとボールナットとが使われていた、このため駆動部分の重量が重かった。またモータが故障すると、ボールねじとモータとが直結されているため、両者を切り離さないと修復できなかった。

「問題点を解決するための手段」

この考案によればバス車両の天井の内、外張板間に本体枠が取付けられ、その本体枠上に移動自在に滑車付移動台が取付けられ、その移動台にはテレビセットが固定され、その本体枠と移動台との間に駆動ワイヤが架張される。駆動ワイヤは駆動車で駆動され、クラッチにより駆動車に対し、モータと手動駆動手段とを切替えて連結状態とすることができるようになる。

駆動力の伝達をワイヤにより行うため軽量のも

のとすることができる、かつクラッチによりモータによる駆動と手動駆動手段による駆動とを切替えることができ、モータが故障の時に手動で移動させることができる。

#### 「実施例」

本体枠11はアルミニウム材で作られた長方形とされ、本体枠11は図に示していないが、バス車両の天井の内、外張板間に取付けられる。そのために本体枠11の適当な個所に固定用アングル12が固定されている。また本体枠11上に滑車を通してするために、本体枠11の断面はU字状となされている。

本体枠11に移動台13が移動自在に取付けられる。移動台13は本体枠11内にゆるく嵌る枠状をしており、その両側に滑車14が回転自在に取付けられ、その滑車14は本体枠11の断面U字状部内に収容され、移動台13は本体枠11の長手方向に沿って往復移動できる。移動台13の下面にテレビセット15が固定されている。

移動台13と本体枠11との間に駆動ワイヤ16

が架張される。駆動ワイヤ16としてはチェン、ベルトなどを使用することができ、チェンを用いる場合は、スプロケット17、18が本体枠11の両端にそれぞれ設けられる。スピロケット18はクラッチボックス19内に第2図に示すように設けられる。スプロケット17、18に駆動ワイヤ16がめぐらされ、駆動ワイヤ16の両端は移動台13に固定される。従って駆動ワイヤ16を駆動すると移動台13が本体枠11上を移動することになる。

第2図に示すようにクラッチ21が手動駆動手段としてのかさ歯車22とモータ23とを駆動車としてのかさ歯車24に切替え連結状態とすることができます。すなわち、モータ23の回転軸に継手25が固定され、この継手25と結合することができる継手26が移動自在に保持され、ハンドル28をクラッチ板27に係合させて、クラッチ板27を回動することにより継手26を継手25と結合状態にしたり、その結合を解除することができる。継手26の回転軸は駆動車としてのかさ

歯車24の軸と連結される。かさ歯車24の軸29はスプロケット18と回転方向には結合し、軸方向には互に移動できるようにされている。クラッチ板27の回動によりかさ歯車24がかさ歯車22とかみ合されると、継手26は継手25から外れ、継手26を継手25と結合させると、かさ歯車24がかさ歯車22から外れる。

継手26を継手25と結合させた状態でモータ23を正、逆回転させると、その回転力はスプロケット18に伝達され、駆動ワイヤ16が駆動され、移動台13、テレビセット15は往復移動する。この時、移動台13が本体枠11の両端部にそれぞれ移動するとマイクロスイッチ31又は32が動作して、モータ23が自動的に停止するよう構成されてある。

モータ23が故障した時は、クラッチ板27を制御して継手26を継手25から外し、かさ歯車24をかさ歯車22にかみ合せ、この状態でハンドル33でかさ歯車22を回動することによりスプロケット18が回転され、駆動ワイヤ16が駆

動され、移動台 13 を手動で移動させることができ  
る。

なおモータ 23、クラッチボックス 19 を移動  
台 13 に取付けてもよい。

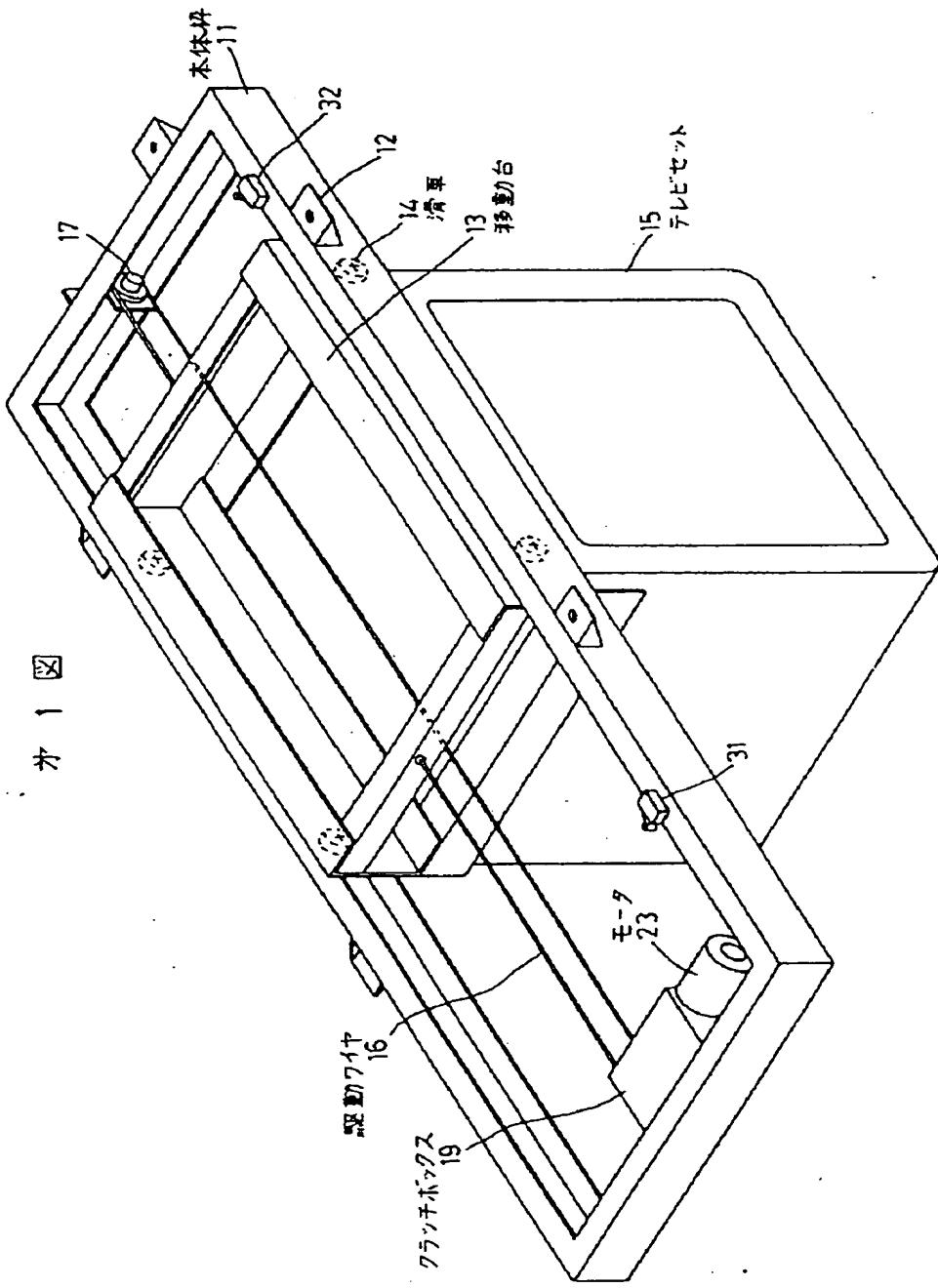
#### 「考案の効果」

以上述べたようにこの考案においてはボールね  
じではなく、駆動ワイヤ 16 で移動台 13 を駆動  
するため軽量のものとすることができます。またモ  
ータ 23 が故障時にはクラッチ 21 を操作するこ  
とにより、手動で移動台 13 を移動させることができ  
きかつモータ 23 を簡単に外すことができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第 1 図はこの考案のテレビ移動装置の一例を示  
す斜視図、第 2 図はクラッチ 21 の具体例を示す  
斜視図である。

実用新案登録出願人：株式会社三陽電機製作所  
代 理 人：草 野 卓

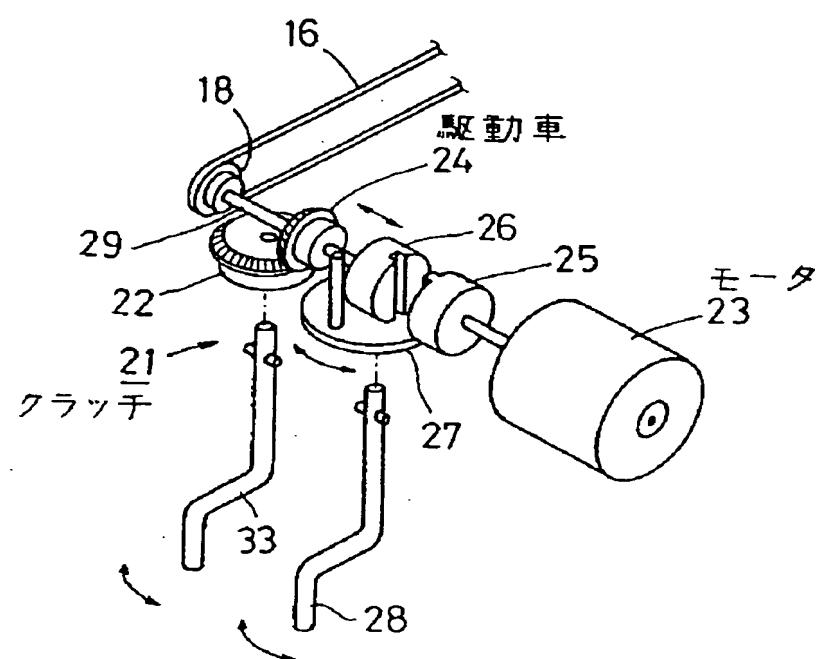


代理人 井上 草野 順

863

実用 1-74682

カ 2 図



864  
実開 1-74682